

各位

上場会社名 中央化学
 代表者 代表取締役社長執行役員 渡辺 信
 (コード番号 7895)
 問合せ先責任者 取締役専務執行役員管理本部長 永田 修
 (TEL 048-540-2624)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年7月3日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	35,000	1,000	800	△3,100	—
今回発表予想(B)	37,215	1,524	1,492	△846	—
増減額(B-A)	2,215	524	692	2,254	
増減率(%)	6.3	52.4	86.5	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	41,137	△1,311	△1,373	△3,453	—

平成21年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	78,000	2,400	1,600	△2,700	—
今回発表予想(B)	76,000	3,000	2,100	△800	—
増減額(B-A)	△2,000	600	500	1,900	
増減率(%)	△2.6	25.0	31.3	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	84,931	△2,259	△3,652	△6,965	—

平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	29,500	1,000	800	△3,000	—
今回発表予想(B)	29,330	1,172	1,028	△1,237	—
増減額(B-A)	△170	172	228	1,763	
増減率(%)	△0.6	17.2	28.5	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	31,932	△1,307	△1,341	△4,570	—

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	64,000	2,200	1,600	△2,400	—
今回発表予想(B)	63,000	2,600	1,900	△800	—
増減額(B-A)	△1,000	400	300	1,600	
増減率(%)	△1.6	18.2	18.8	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	68,594	△2,088	△2,788	△9,388	—

修正の理由

1. 第2四半期累計期間(連結・個別)

第2四半期累計期間における売上高は、個別を中心とする国内については、ほぼ予想の通りとなりました。一方、連結では、北米・アジアで、販売単価の上昇に加え、前回(7月3日公表)想定していた為替レートよりも円安に推移したことなどもあり、売上予想に対し約22億円上回る結果となりました。

一方、営業利益及び経常利益は、国内において、原材料費削減をはじめとした製品原価の低減や不採算取引の是正並びに販売価格の値下がり抑制効果、標準在庫の低減による製品保管料の削減、その他社内全般にわたる経費削減が順調に進行したことにより、営業利益で約3億円の増加、更に為替差益の発生もあり、経常利益は前回予想から約4億円の増加となりました。

北米・アジアでは、販売単価の上昇等により営業利益が約2億円の増加、更に為替差益の発生もあり、経常利益は前回

予想から約3億円の増加となりました。

この結果、連結での営業利益は前回予想から約5億円の増加、経常利益も前回予想から約7億円の増加となりました。

上記の経常利益約7億円(うち国内個別は2億円)の増加に加え、個別においては、株式売却益等約4億円の発生や前回予想時に見込んでおりました海外事業再編費用が10億円の予想から2億円減少し8億円となったこと、また、繰延税金資産の取崩しが10億円の予想から9億円減少し1億円の取崩しとなったことなどにより、個別の当期純利益は前回予想30億円の損失から17億円収益改善し、約12億円の損失となりました。

連結の当期純利益については、上述いたしました個別における改善約17億円のほかに、他の連結会社における経常利益の増加5億円が加わり、合計22億円が前回予想より改善することとなりました。

2. 通期(連結・個別)

個別での売上高は国内需要の停滞や不採算取引の是正等により、前回予想から若干の未達が予想されるものの、製品の軽量化効果、フレキシブルな生産体制と適正な生産ロット方式の組み合わせによる標準在庫の低減(製品保管料の削減)、その他社内全般にわたる経費削減が進んでいる事などにより、営業利益は26億円となる見込みです。また、経常利益についても、営業利益の増加が寄与し、約19億円となる見通しです。

連結におきましては、上記個別で要因に加え、米国業績も好調を維持できると想定されることから経常利益は前回予想を5億円上回り21億円となる見通しです。尚、当期純利益につきましては、第2四半期累計期間で発生した特別損失の負担を吸収しきれず、約8億円の純損失となる見通しです。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上